東京信徒会主催　講演会のご案内

いのちの尊厳の確立を目指して

――自死、原発、いじめ、その他 日本社会の根本課題との取組み

日　時　2013年6月22日（土）14時～16時30分

会　場　日本基督教団 富士見町教会 2階 CSホール（参加費無料）

千代田区富士見町2-10-38　（℡ ０３－３２６１－０６３３）

ＪＲ飯田橋駅下車（四谷・新宿寄り改札口）　左側へ徒歩３０秒

13年間も続いた年に３万人を超す自死。２０１２年は辛うじて下回ったとはいえ、先進諸国のうちで、なぜこんなにも多いのか。原発事故による放射能汚染の恐怖と展望のないエネルギー政策。相変わらず多発する教育現場の「いじめ」や「体罰」――日本社会の根本課題を取り上げ、「いのち」本来の意味を求めます。講師は東京信徒会お馴染みの阿久戸光晴聖学院大学学長。核心に迫る明快な論評にご期待を！

講師　聖学院大学

阿久戸光晴（あくど みつはる）　理事長学長

〈講師プロフィール〉一橋大学社会学部卒業・法学部卒業。東京神学大学大学院博士課程前期修了。神学修士。ジョージア大学法学部大学院、エモリー大学神学部大学院などを経て、２００３年から聖学院大学学長。２０１１年理事長・現院長兼務。専門はキリスト教社会倫理学。日本基督教団滝野川教会牧師、東京池袋教会名誉牧師。荒川区民として区行政にも活躍。説教集『新しき生』、『近代デモクラシー思想の根源―「人権の淵源」と「教会と国家の関係」の歴史的考察―』ほか著書多数。

〈自死〉　1998（平成10）年に、年間自殺者数が統計のある1897年以降で初めて3万人を突破、さらに2003年（平成15年）には34427人に達し、現在までにおける過去最大数となっている。以来、13年連続で年間3万人を超えた。最近では「就活自死」も浮上。

〈原発〉　安全神話が崩壊、次々と重大トラブルが続く中、政府関係筋では早くも「原発再稼動の方向性」を打ち出している。使用済み核燃料の処理には「国家100年の計」どころか1000年も要する。目先の利益ではなく、後世への長い時間の中での配慮が必要だ。

〈いじめ〉　繰り返し教育界を揺さぶる課題だ。文科省をはじめ各教育委員会や有識者会議などが「いじめ対策」の通達などを出している。現場の教師、ＰＴＡ、当事者の子どもたち……いったい、解決への鍵は誰の手にあるのだろうか。どう接すればいいのだろうか。